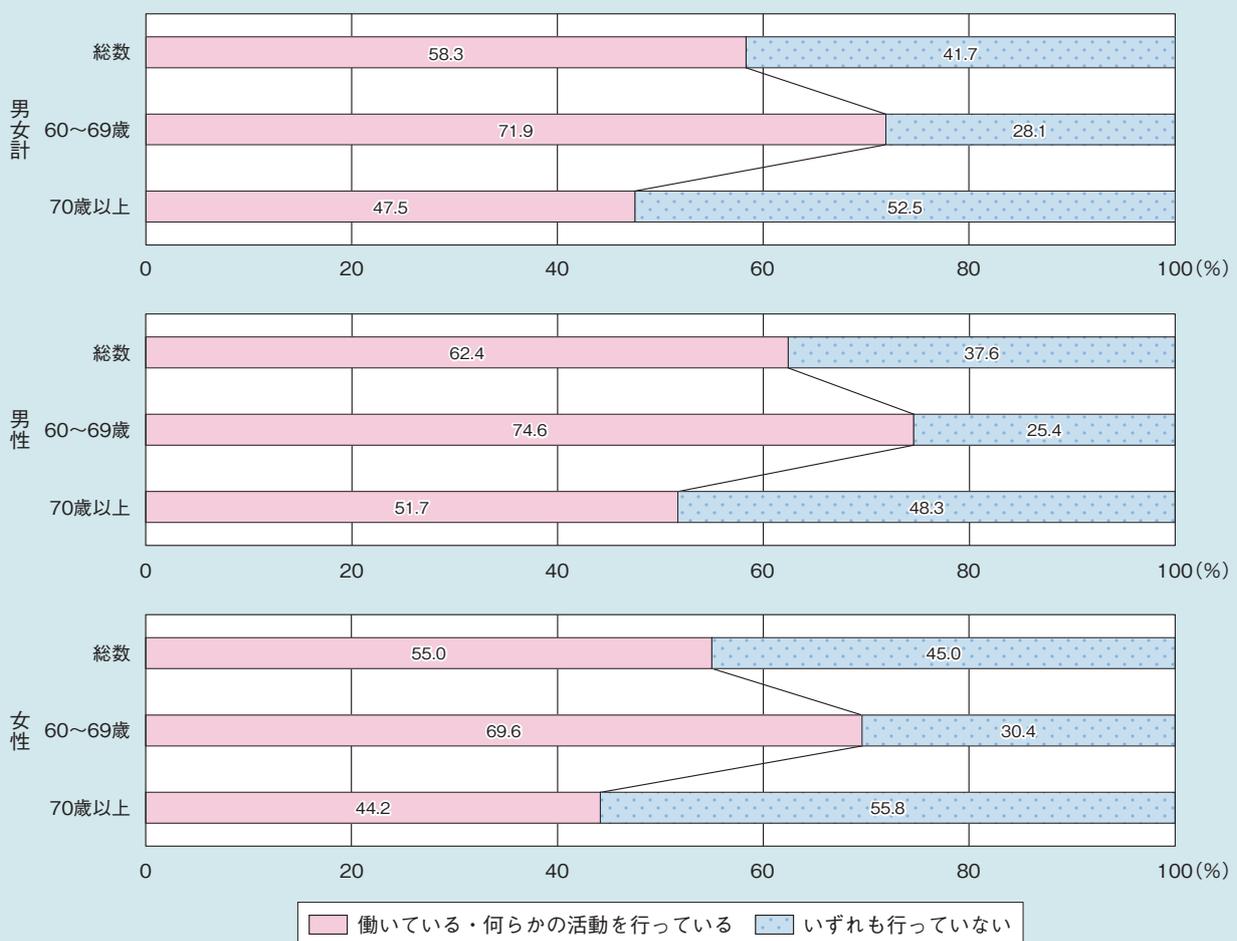


③ 学習・社会参加

○ 60歳～69歳の約7割、70歳以上の約5割弱が働いているか、またはボランティア活動、地域社会活動（町内会、地域行事など）、趣味やおけいこ事を行っている

- ・ 60歳以上の者の社会活動の状況についてみると、60歳～69歳では71.9%、70歳以上では47.5%の者が働いているか、またはボランティア活動、地域社会活動（町内会、地域行事など）、趣味やおけいこ事を行っている（図1-2-34）。

図1-2-34 60歳以上の者の社会活動の状況



資料：厚生労働省「平成28年国民健康・栄養調査報告」

(注) 質問は「あなたは現在働いていますか。または、ボランティア活動、地域社会活動（町内会、地域行事など）、趣味やおけいこ事を行っていますか。」

- ・ また、内閣府で行った調査では、現在、何らかの社会的な貢献活動に参加しているとの回答の合計は約3割（「特に活動はしていない」と回答した者をのぞいた計）となっている（図1-2-35）。
- ・ 参加している活動は「自治会、町内会などの自治組織の活動」（18.9%）、「趣味やスポーツを通じたボランティア・社会奉仕などの活動」（11.0%）が多い。

図1-2-35 社会的活動（貢献活動）の実施状況（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」（平成28年）

（注1）調査対象は、大分県と熊本県を除く全国の60歳以上の男女。

（注2）質問は「あなたは現在、何らかの社会的な活動を行っていますか。あてはまるものをすべてお答えください。活動の内容が社会や家族を支える活動であっても、単なるご近所づきあいによるものは含みませんが、現在はたまたま一人で活動をされているが、本来は組織がある（組織を作る予定がある）という場合は含みます。」

- ・社会的な活動（最も力をいれている活動）をしていてよかったことを尋ねたところ、全体では「新しい友人を得ることができた」（56.8%）や「地域に安心して生活するためのつながりができた」（50.6%）が5割台で高い（図1-2-36）。

図1-2-36 社会的な活動をしていてよかったこと（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」（平成28年）

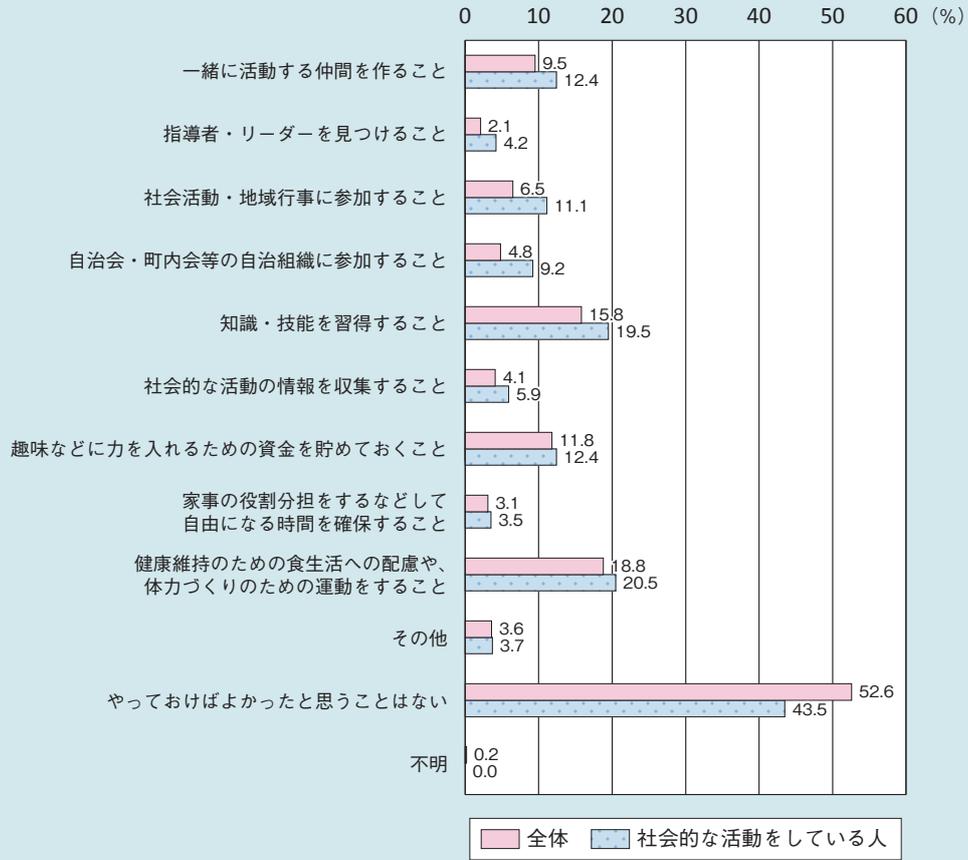
（注1）調査対象は、大分県と熊本県を除く全国の60歳以上の男女。

（注2）回答条件は社会的な活動をしている者

（注3）複数の活動をしている場合は、最も力をいれている活動について回答している。

- ・今よりもっと活躍するために60代になる前からやっておけばよかったと思うことは何かと尋ねたところ、「やっておけばよかったと思うことはない」との回答が全体では52.6%、社会的活動に参加していると回答した人では43.5%といずれも最多であった（図1-2-37）。

図1-2-37 60代前からやっておけばよかったと思うこと（複数回答）

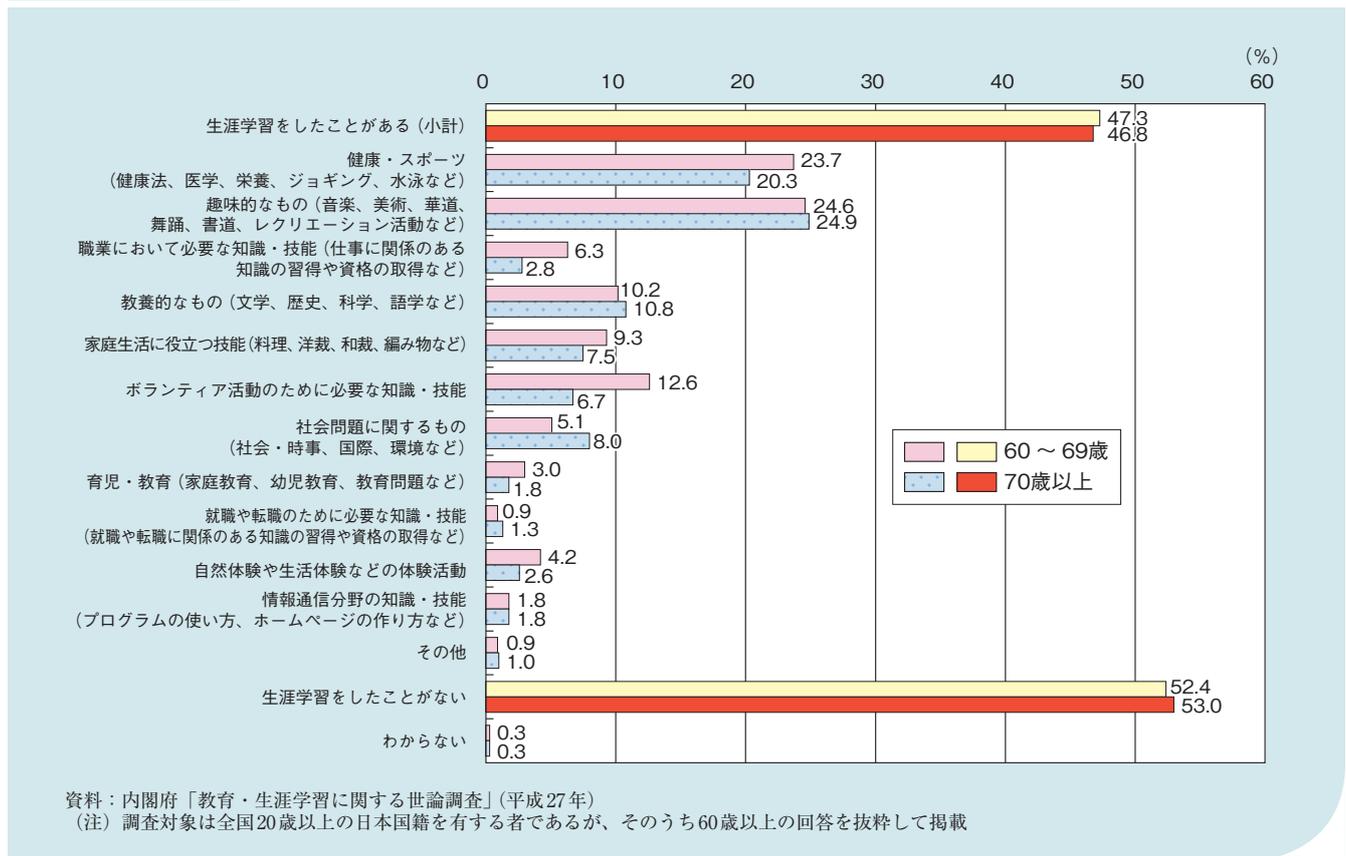


資料：内閣府「高齢者の経済・生活環境に関する調査」（平成28年）
 （注）調査対象は、大分県と熊本県を除く全国の60歳以上の男女。

○生涯学習を行っている60歳以上の者は4割以上、内容は「趣味的なもの」、「健康・スポーツ」

・60歳以上の者の生涯学習への参加状況についてみると、この1年くらいの間に生涯学習をしたことのある人は、60代でも70歳以上でも4割以上となっている。内容は、「趣味的なもの」が最も多く、60代で24.6%、70歳以上で24.9%、ついで「健康・スポーツ」が60代で23.7%、70歳以上で20.3%となっている（図1-2-38）。

図1-2-38 60歳以上の者が行っている生涯学習（複数回答）

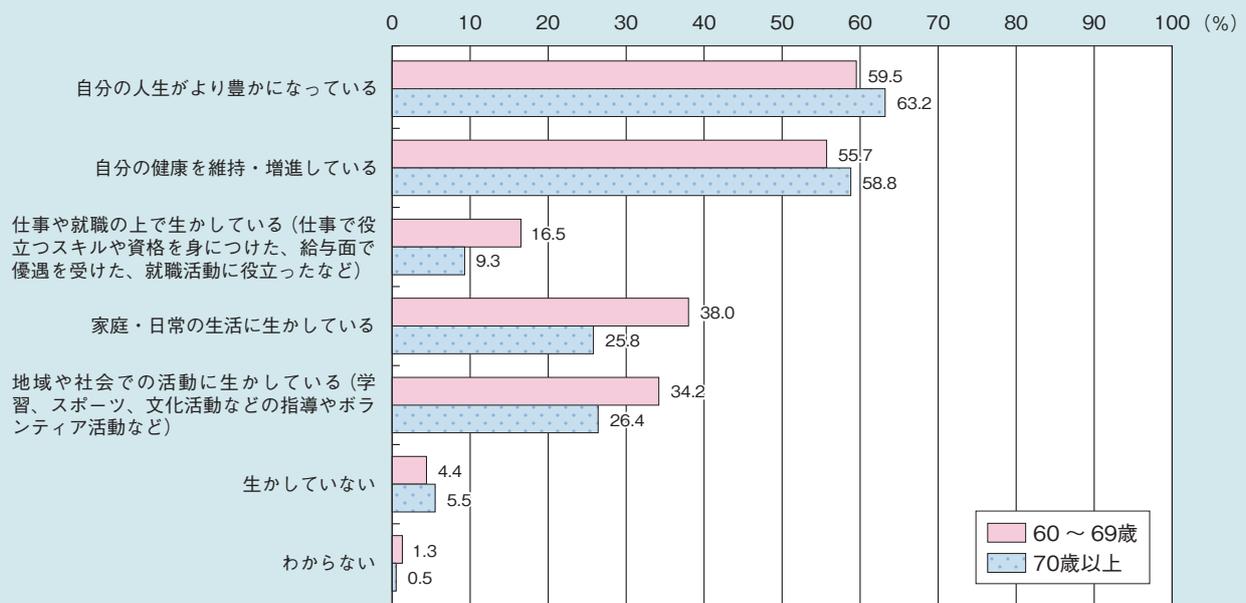


資料：内閣府「教育・生涯学習に関する世論調査」(平成27年)
 (注) 調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者であるが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

○生涯学習を行うことによって、「人生がより豊かになっている」

- ・この1年くらいの間に、「生涯学習をしたことがある（小計）」とする人に、生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、どのように生かしているか聞いたところ、「自分の人生がより豊かになっている」が60代で59.5%、70歳以上で63.2%と最も多く、次いで「自分の健康を維持・増進している」が60代で55.7%、70歳以上で58.8%となっている。（図1-2-39）。

図1-2-39 身につけた知識等の活用状況（複数回答）



資料：内閣府「教育・生涯学習に関する世論調査」（平成27年）

（注1）調査対象は全国20歳以上の日本国籍を有する者であるが、そのうち60歳以上の回答を抜粋して掲載

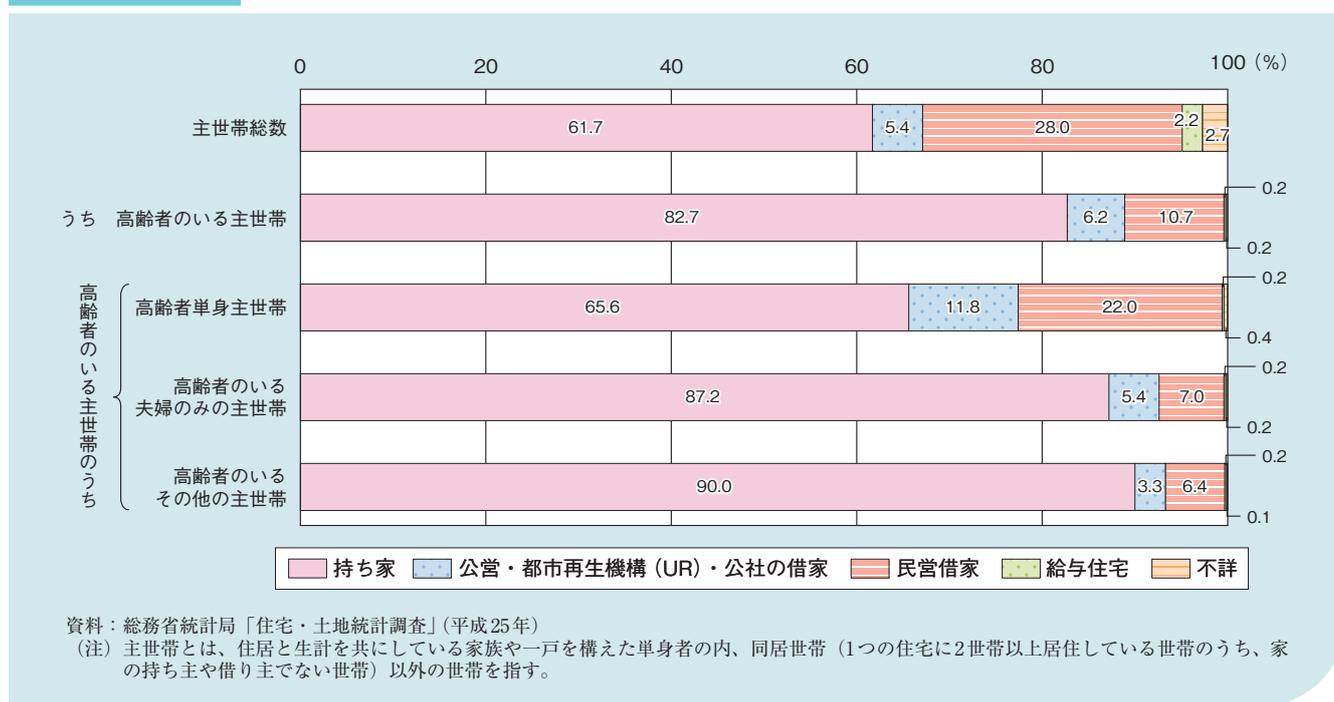
（注2）この1年くらいに「生涯学習をしたことがある（計）」とする者に質問した。

4 生活環境

○高齢者（65歳以上）のいる主世帯の8割以上が持家に居住している

- ・ 高齢者（65歳以上）のいる主世帯について、住宅所有の状況をみると、持ち家が82.7%と最も多い。ただし、世帯別にみると、高齢者（65歳以上）単身主世帯の持家の割合は65.6%となり、高齢者（65歳以上）のいる主世帯総数に比べ持ち家の割合が低い（図1-2-40）。

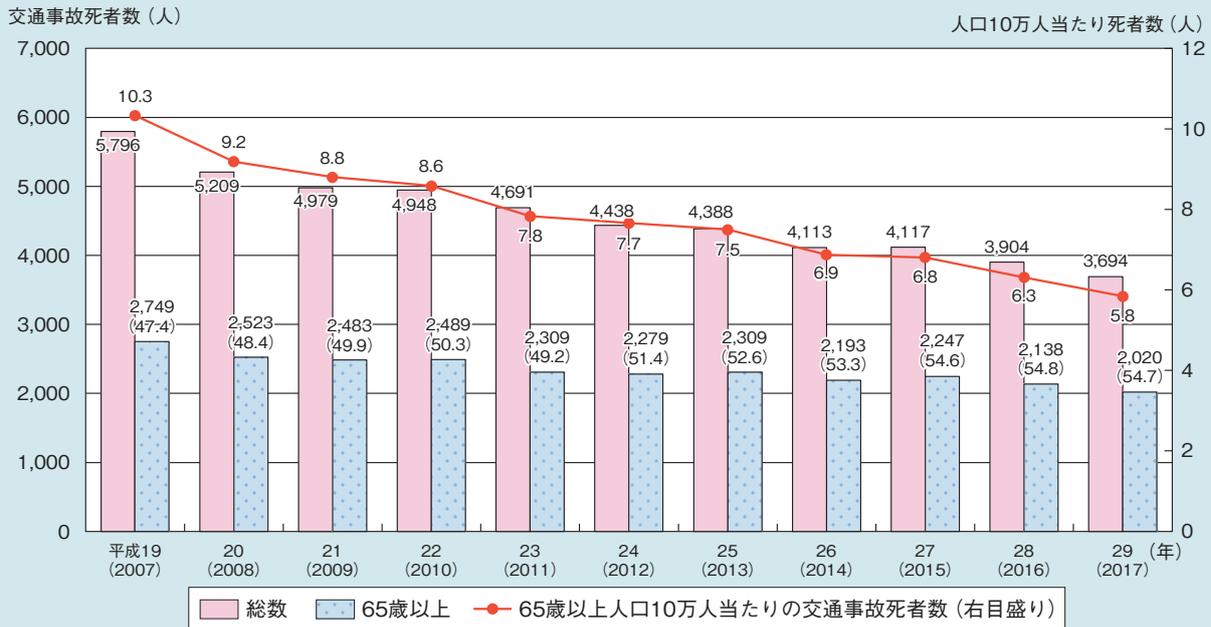
図1-2-40 住居の状況



○交通事故死者数に占める65歳以上の者の割合は54.7%

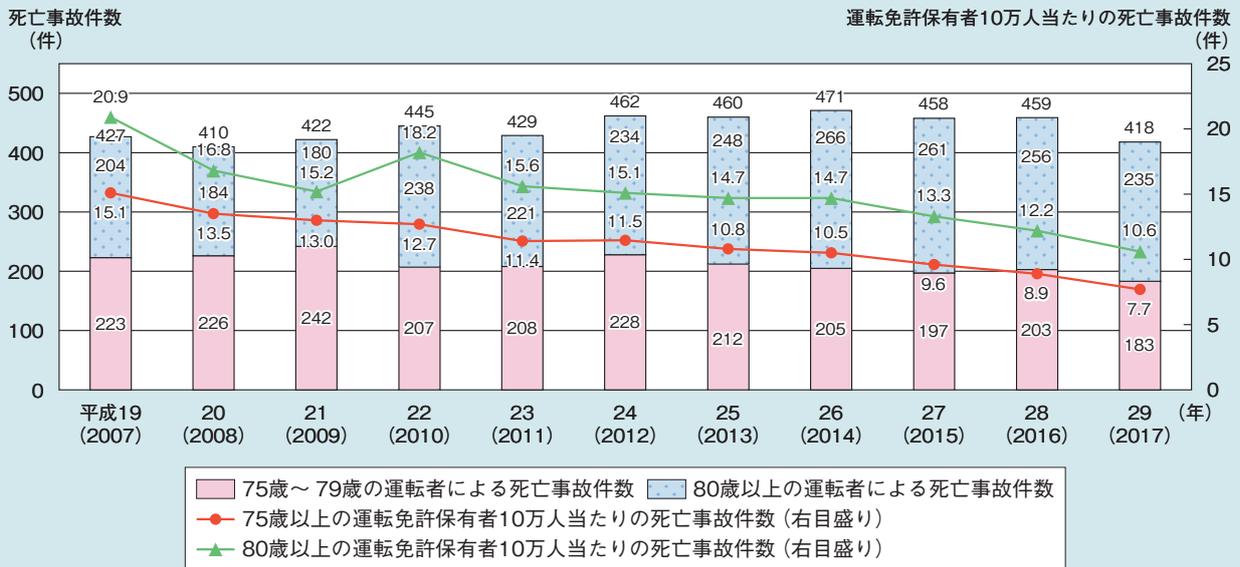
- ・ 平成29（2017）年中における65歳以上の者の交通事故死者数は、2,020人で、前年より118人減少したが、交通事故死者数全体に占める65歳以上の者の割合は54.7%であった（図1-2-41）。
- ・ 75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数の割合は減少傾向にある。80歳以上の平成29（2017）年における死亡事故件数は235件で、運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数は10.6件であった。（図1-2-42）。

図1-2-41 交通事故死者数及び65歳以上人口10万人当たりの交通事故死者数の推移



資料：警察庁提供データ、総務省「人口推計」により、内閣府が作成
 (注) () 内は、交通事故死者数全体に占める65歳以上の者の割合。

図1-2-42 75歳以上の運転者による死亡事故件数及び75歳以上の運転免許保有者10万人当たりの死亡事故件数



75歳以上の運転免許保有者数(万人)

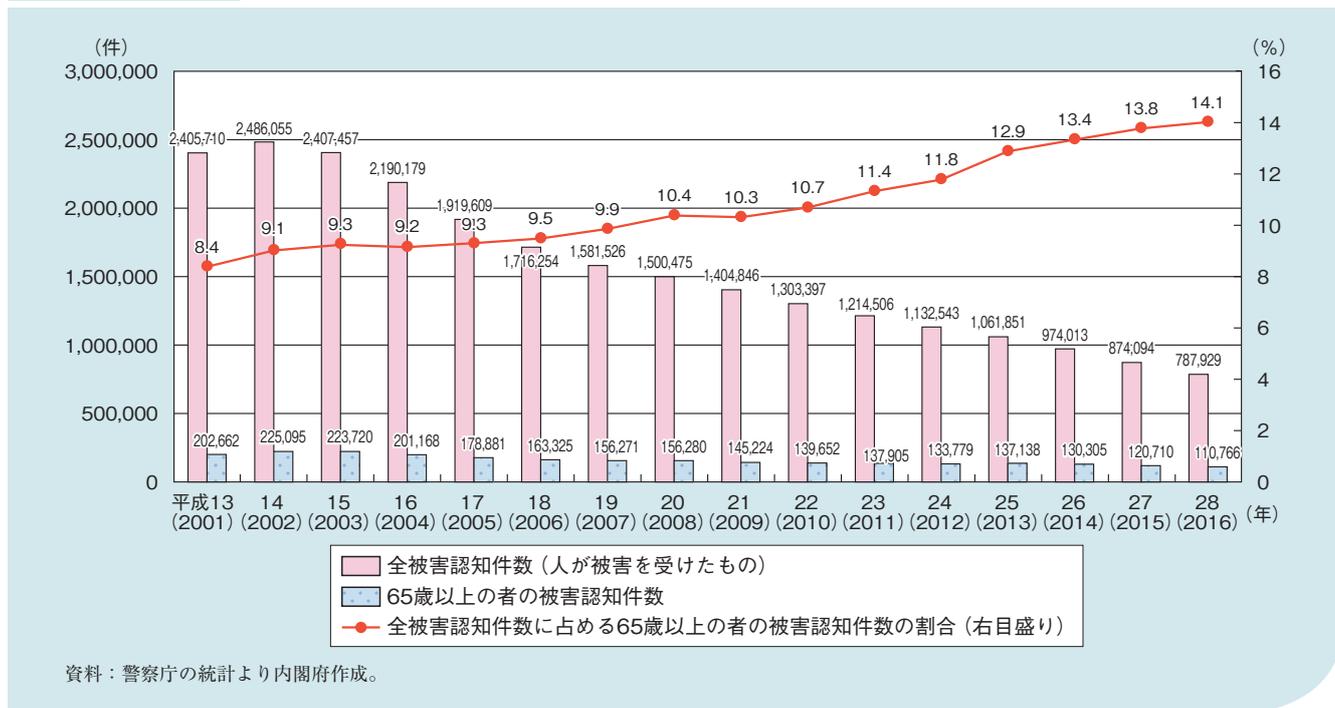
19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
283	304	324	351	375	403	425	447	478	513	540
うち、80歳以上										
98	109	119	131	141	155	169	180	196	209	221

資料：警察庁統計による

○65歳以上の者の刑法犯罪被害認知件数に占める割合は増加傾向

- ・ 犯罪による65歳以上の者の被害の状況について、65歳以上の者の刑法犯被害認知件数でみると、平成14（2002）年にピークを迎えて以降、近年は減少傾向にあるが、65歳以上の者が占める割合は、平成28（2016）年は14.1%と、増加傾向にある（図1-2-43）。

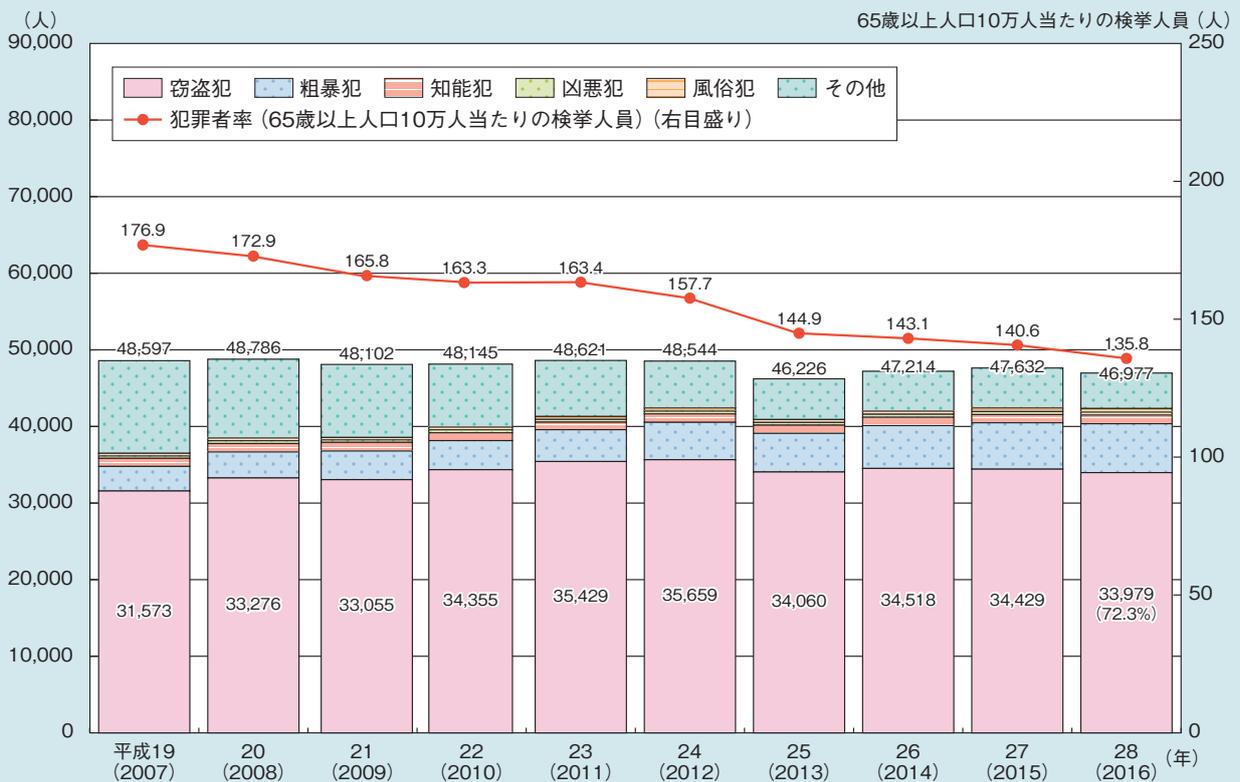
図1-2-43 65歳以上の者の刑法犯被害認知件数



○65歳以上の者の犯罪者率は低下傾向

- ・65歳以上の者の刑法犯の検挙人員は、平成28（2016）年は46,977人と前年に比べほぼ横ばいであつた一方、犯罪者率は、平成19（2007）年にピークを迎えて以降は低下傾向となっている。
- ・また、平成28（2016）年における65歳以上の者の刑法犯検挙人員の包括罪種別構成比をみると、窃盗犯が72.3%と7割を超えている（図1-2-44）。

図1-2-44 65歳以上の者による犯罪（65歳以上の者の包括罪種別検挙人員と犯罪者率）

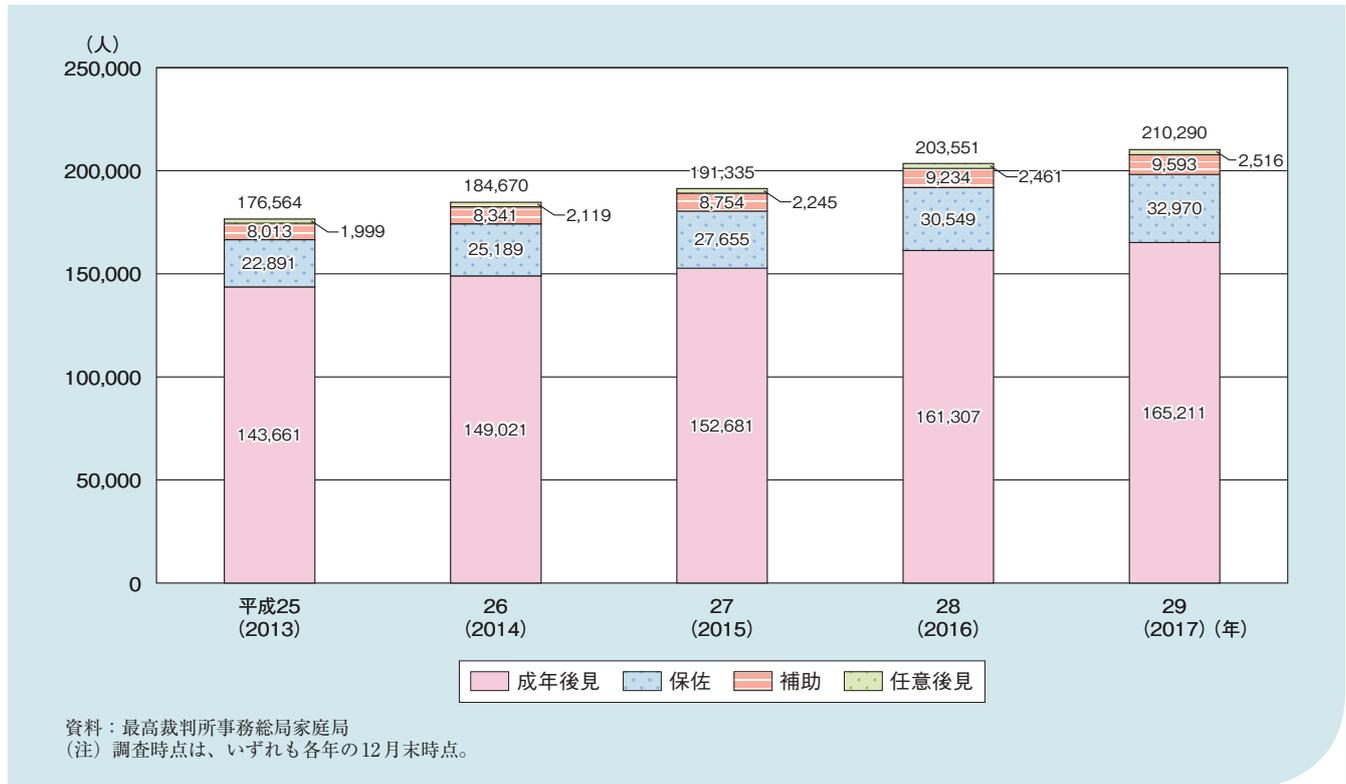


資料：警察庁統計より内閣府作成

○成年後見制度の利用者数は増加傾向

- ・平成29（2017）年12月末時点における成年後見制度の利用者数は210,290人で、各類型（成年後見、保佐、補助、任意後見）で増加傾向にある（図1-2-45）。

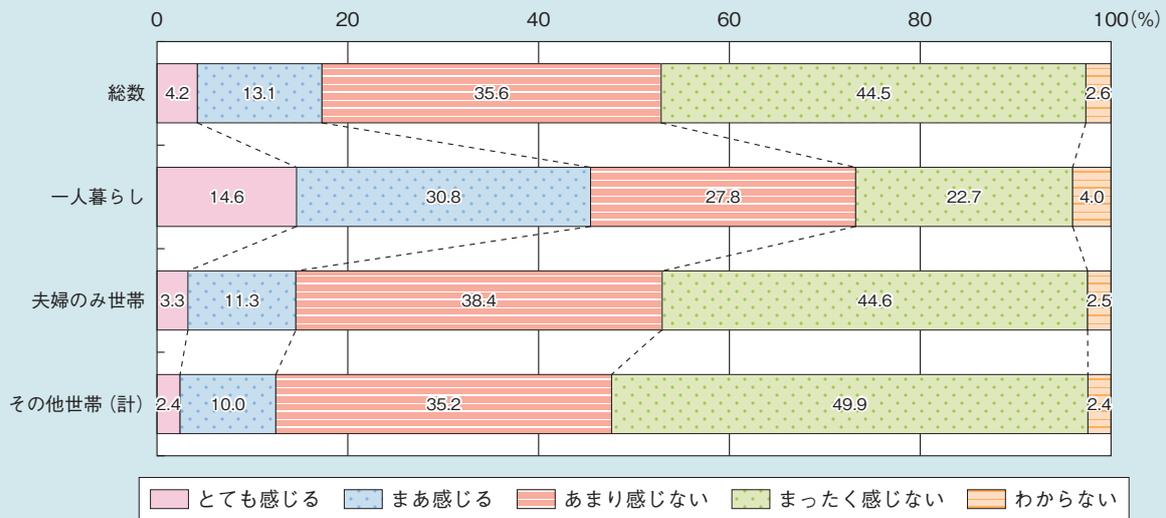
図1-2-45 成年後見制度の利用者数の推移



○一人暮らしの60歳以上の者の4割超が孤立死（孤独死）を身近な問題と感じている

- ・孤独死（誰にも看取られることなく亡くなったあとに発見される死）を身近な問題だと感じる（「とても感じる」と「まあ感じる」の合計）人の割合は、60歳以上の者全体では17.3%だが、一人暮らし世帯では45.4%と4割を超えている（図1-2-46）。

図1-2-46 孤独死を身近な問題と感じるものの割合



資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」(平成24年)
 (注1) 調査対象は全国55歳以上の男女であるが、そのうち60歳以上の再集計
 (注2) 「その他世帯(計)」は、二世帯世帯、三世帯世帯及びその他の世帯の合計をいう。
 *本調査における「孤独死」の定義は「誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見される死」

○孤立死と考えられる事例が多数発生している

- ・ 死因不明の急性死や事故で亡くなった人の検案、解剖を行っている東京都監察医務院が公表しているデータによると、東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数は、平成28(2016)年に3,179人となっている(図1-2-47)。

図1-2-47 東京23区内における一人暮らしで65歳以上の人の自宅での死亡者数

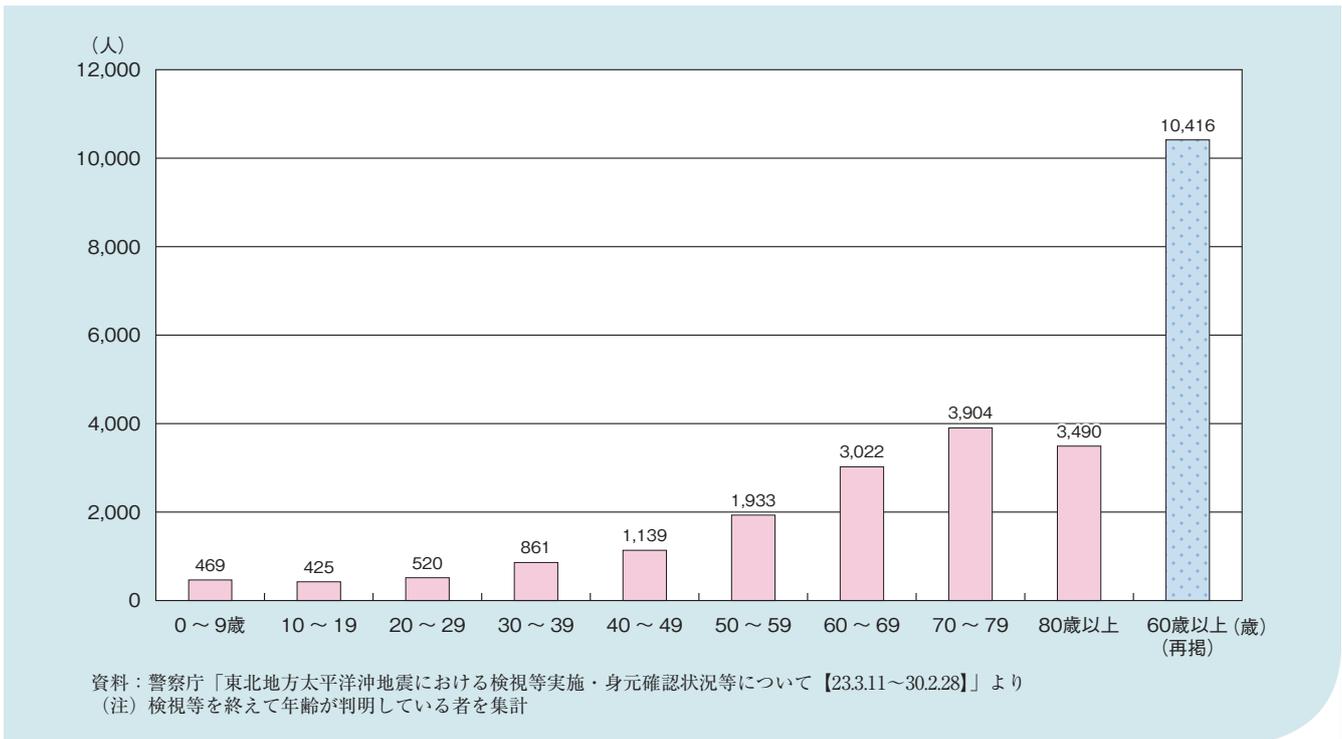


資料：東京都福祉保健局東京都監察医務院「東京都23区内における一人暮らしの者の死亡者数の推移」

○東日本大震災における被害状況

- ・岩手県、宮城県、福島県の3県で収容された死亡者は平成30（2018）年2月28日までに15,825人にのぼり、検視等を終えて年齢が判明している15,763人のうち60歳以上の人は10,416人と66.1%を占めている（図1-2-48）

図1-2-48 東北地方太平洋沖地震における年齢階級別死亡者数

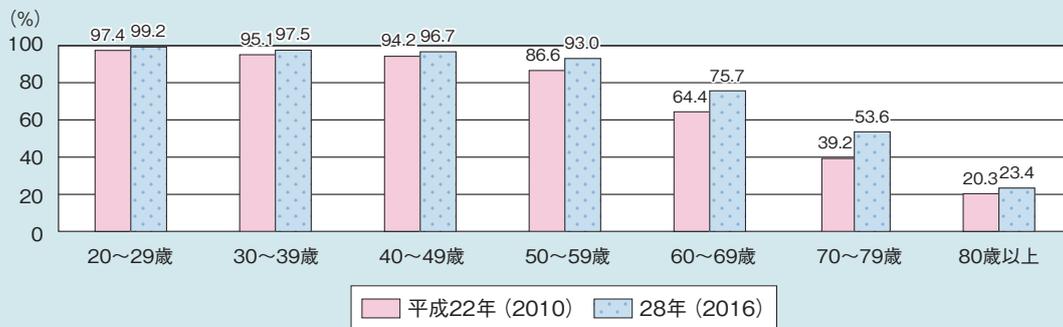


5 研究開発等

○インターネットを活用する高齢者が増加

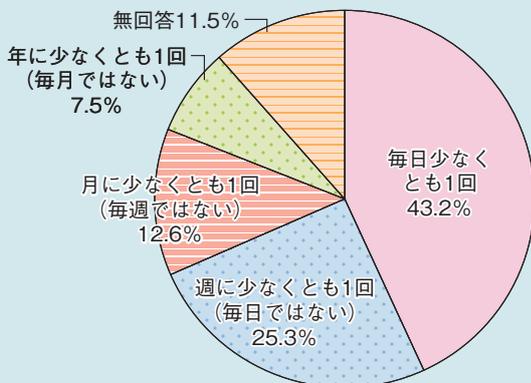
- ・過去1年間にインターネットを利用したことがあるかについて、利用者の年齢階級別に6年前と比較すると、70～79歳が14.4ポイント増と最も大きく、次いで60～69歳が11.3ポイント増などとなっており、インターネットを利用する60代、70代の者が増加傾向にある（図1-2-49）。
- ・また、インターネットを利用したことがあると回答した65歳以上の者の使用頻度についてみると、半数近くの43.2%が「毎日少なくとも1回」は利用していると回答している（図1-2-50）。

図1-2-49 利用者の年齢階級別インターネット利用率



資料：総務省「通信利用動向調査」
 (注) 無回答を除く

図1-2-50 インターネットの使用頻度 (65歳以上のインターネット利用者)

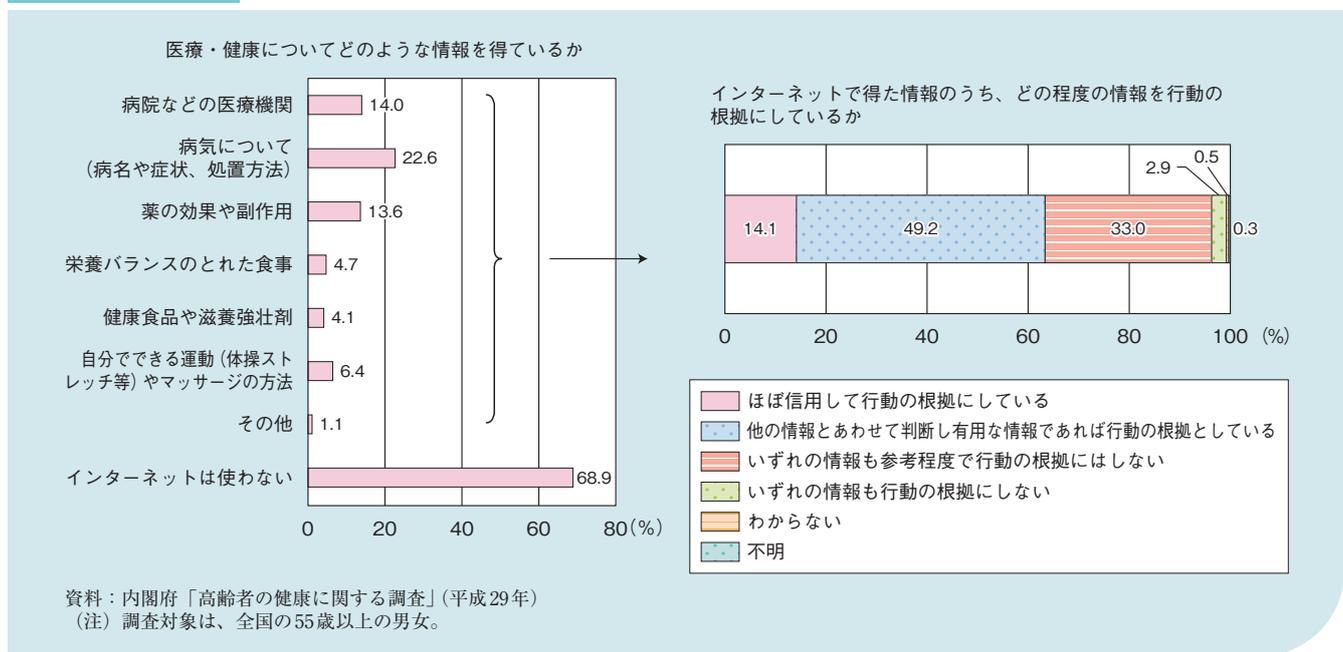


資料：総務省「通信利用動向調査」(平成28年)

○インターネットで医療・健康の情報を得る人は約3割

- ・医療や健康に関する情報をインターネットで調べることがあるか尋ねたところ、インターネットで病気について（病名や症状、処置方法）の情報を得ている人が22.6%、病院などの医療機関が14.0%、薬の効果や副作用が13.6%となっている。
- ・インターネットで得た情報のうち、どの程度の情報を行動の根拠にしているかについてみると、「他の情報とあわせて判断し有用な情報であれば行動の根拠としている」が49.2%と最も多い。ついで、「いずれの情報も参考程度で行動の根拠にはしない」が33.0%、「ほぼ信用して行動の根拠にしている」が、14.1%となっている（図1-2-51）。

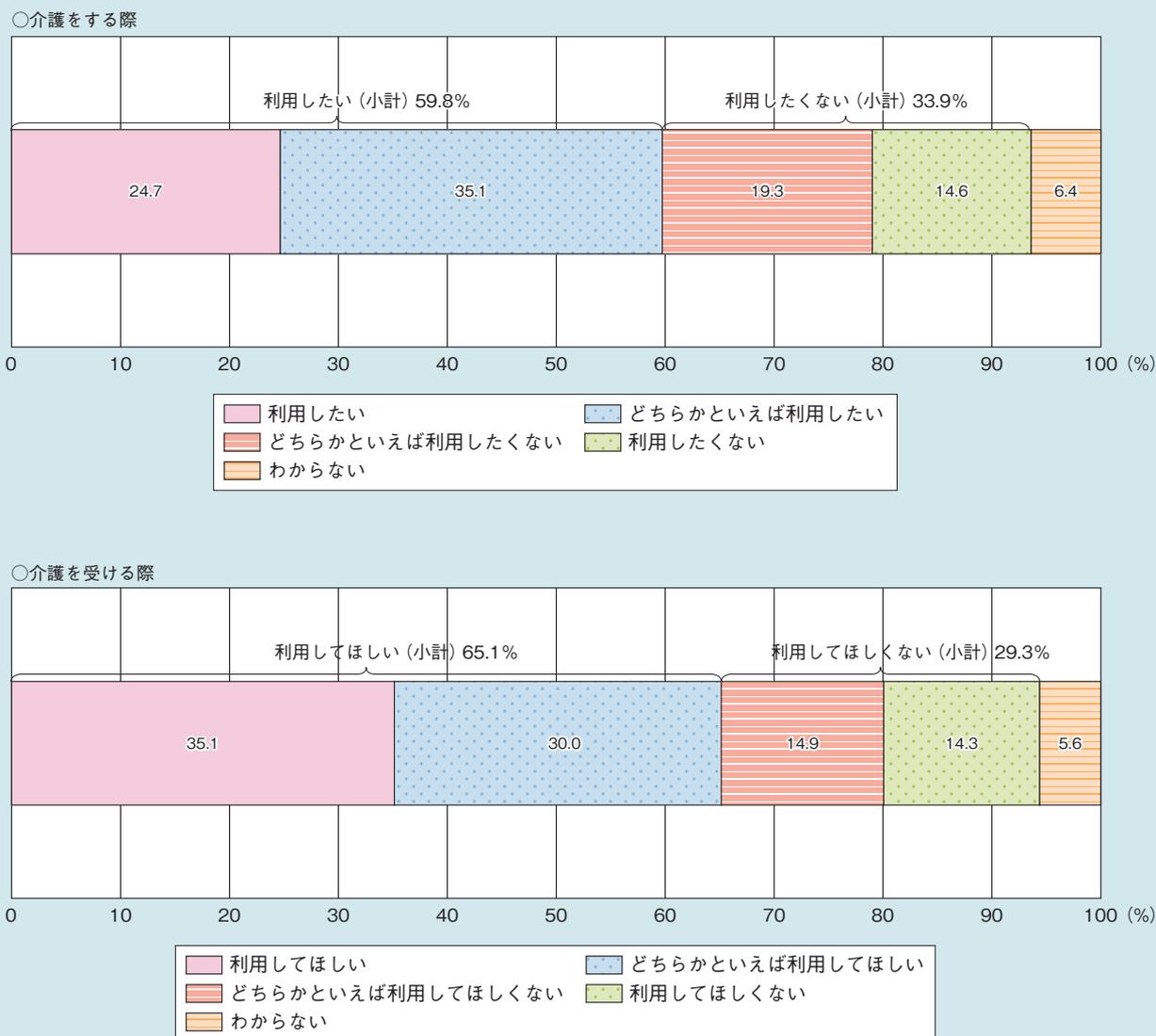
図1-2-51 インターネットで医療・健康についてどのような情報を得ているか
また、インターネットで得た情報を行動の根拠にするか



○介護をする際に介護ロボットを利用したい人は59.8%、介護を受ける際に介護ロボットを利用してほしい人は65.1%

- ・内閣府が行った調査によれば、介護をする際に、介護ロボットを利用したいと回答した人の割合は、「利用したい」（24.7%）と「どちらかといえば利用したい」（35.1%）と回答した人の割合をあわせると59.8%で、「利用したくない（小計）」（33.9%）と回答した人よりも多い。
- ・また、介護を受ける際に介護ロボットを利用してほしいと回答した人の割合は、「利用してほしい」（35.1%）と「どちらかといえば利用してほしい」（30.0%）と回答した人の割合をあわせると65.1%で、「利用してほしくない（小計）」（29.3%）と回答した人よりも多い（図1-2-52）。

図1-2-52 介護をする際・受ける際の介護ロボット利用意向



資料：内閣府「介護ロボットに関する特別世論調査」(平成25年)
 (注) 調査対象は、全国20歳以上の日本国籍を有する者。